昭和五十八年五月二八日　理研会報　第129号

理研会報

発行
印旛郡理科研究部
事務局
成田市幸町948の1
成田小学校内

日々の授業実践の中から

理科研究部長　武藤　喜正

「黒板に種子を播き、黒板に水をやり、黒板に花を咲かせる」理研会報の何号かに、こんな文章がのったことがありました。

当時は、盛んに、実験・観察の重要性が論じられていた頃です。子ども一人ひとりに実験・観察を、という声もありました。

現在はどうでしょうか。科学的思考力を、子どもが生き生きと問題に等の主題を掲げて、実践研究が行われていますが　日常の授業の中で、実験・観察が正しく位置づけられ、子どもの思考力の育成は計られているでしょうか。こんな事を考えながら本年度の活動指針として次の　点をあげました。

一、日常の実践を持ち寄って。

本年度の教育研究集会（理科）は、十月四日に開かれる予定です。一日かけて十分討議できます。教研は研究員に、などとならないよう私達一人ひとりが実践をもち寄って、明日の子らのためにとり組もうではありませんか。

二、基礎的実験技術の向上を。

本年度新たに、教師の基礎的実験技術の向上をねらって、部会ごとに地教委のご協力を願って講習会を計画します。それぞれの実態の上に立って種々の内容が盛りこんで行われます。どうぞご期待と積極的なご参加を。

三、理科作品展は。

多くの子ども達の目に。より多くの参加を、ということから会場を毎年変えることにしました。本年度は四街道小学校会場の予定です。子ども達の科学する心を。今から日々の授業の中で大切に育ててその成果を理科作品展にお寄せ下さい。ご期待しています。

四、会報をみんなで。

この会報ももうすぐ二百号を数えます。「こんなつまらないことでは」などと言わず、小さな実践を、どうぞお寄せください。研究部員の交流の場として、みんなで会報を育てようではありませんか。（原稿は部会の役員の方や幹事の木川・小山先生へどうぞ）

その他印教連研究学校として、八街町の二州小学校が指定されました。私達の研究の足がかりとして、指標としてみんなで協力し合おうではありませんか。

部会ごとの提案・ぜひ続けてほしい

前理科研究部副部長　古谷　弘

さわやかな、季節になりました。会員のみなさま方には、ご健勝のことと存じます。

三か年間副部長として、無事役目を果すことができましたことは先輩の先生方をはじめ、部長さん会員の先生方のご指導と、力強いご協力の賜と深く感謝申し上げます。

三年間をふり返ってみますと、夢のような気がします。研究部員が三百名越す大世帯となり、研究のもち方等について討議を重ね現在のような中学校一分科会、小学校二分科会制をとり実施したことなどが思い出されます。

私が常に思うことは、理科研究部のすばらしい伝統のひとつに、教研の発表があると思います。毎年部会提案制であります。小中の一貫性を柱とした、各部会での提案、他の研究部に見られない事であると思います。

また本年度より実施される、理科実験講習会、各部会の部長さんを中心に、実のある研修になることを期待いたします。

副部長は退任いたしましたが、今後研究部の一員として頑張っていきたいと思います。後任の五味副会長共々よろしくお願い申し上げます。

皆様からいただきました　ご厚情に感謝し退任の挨拶といたします。

教材（素材）研究のすすめ方

和田小　今井　正臣

教育課程の基準改訂の基本方針の四に、学習指導要領に定める各教科等の目標・内容を中核的事項にとどめ、教師の自発的な創意工夫を加えた学習指導が十分展開できるようにすることとある。

それゆえに、学校、教師、出版界がこぞって、教材研究をさかんに行ない、各社の理科の雑誌を見てもかならず教材研究を重視し、より新しい具体的な素材研究をのせているものが多い。情報化社会の特徴である　情報過多の問題を含んでいると思う。

教師は、そういう情報と自分自身の経験、子どもの実態から、教材をえらんでいかなければならなくなる。本に書いてありおもしろそうだからやってみようでは　教材研究とはいえないし、教師のための教材研究になってしまう。

理科教育の本質は、自然の事象を教材として子ども自身に取り組ませ、ものごとに感じる感動な心を育てることであるといわれている。そこで、私は新しい教材を子どもに与える時、次の事に考慮している。

一、教科書に書かれている内容と比較するため、教師が実際にやってみる。

二、地域の自然との結びつきがあり、子どもに取り組ませるのに無理がないか。

三、意外性や発展性があるか。

四、具体的な子どもの経験や、問題を生かすことができるか。

有効適切な教材を新しく探し、求めることは、日々実践の中で大切に守り育てられるべきだと思う。

諸氏の具体的なる教材研究の投稿を期待している。

昭和五十八年度　理科研究部役員

- 部長　武藤　喜正（小）
- 副部長　平山　公正（中）
- 〃　五味　安央（中）
- 部会部長
  - 一部会　本橋　茂次（小）
  - 二部会　湯浅　在倉（中）
  - 三部会　牧野　中郷（小）
  - 四部会　京相　印西（中）
  - 五部会　杉山　交光（小）
- 理事
  - 折目　四栄（中）
  - 石井　上志（小）
  - 福田　弥富（小）
  - 今井　間野台（小）
  - 因泥　和田正（小）
  - 笠井　上志津（中）
  - 真志津　徳一（小）
  - 夫中　夫臣（小）
- 理事
  - 飯塚　安食（小）
  - 飛田　成重（中）
  - 古谷　八和（八街）
  - 伊藤　豊育（東小）
  - 宍崎　忠生（小）
  - 藤沢　富住（小）
  - 川穴　正弘（二小）
  - 小井　鉦男（小）
  - 木川　治雄（小）
  - 小山　玉造（小）
  - 成田　香治（小）
- 幹事
  - ※なお　吉井鉦先生は、景人事課にご栄転されました。

（理研会報への投稿は、成田小・小山まで）

「本年度の行事」

- 六月二十九日　研究員集会　役員会
- 九月九日　研究員集会
- 九月二六・二七日　理科作品展
- 十月四日　教研集会
- 十月　理科器具展示会
- 十一月十一日　県発表大会

以上の他、理科実技研、研究学校（二州小）への協力など予定されています。

一六月　栽培メモ

- ○アサガオ
  - つる五葉目で摘芯、子づるを伸ばし　四節で摘芯孫づるに花を。
- ○チューリップ、スイセンなどの球根掘り上げ、蔭干し、貯蔵。
- ○ヒマワリ伸びてきたら支柱を。
- ○ヘチマ・棚やフェンスなどへゴミ捨場の腐葉土など多く入れ定植。
- ○アブラナ→種とり、二年へ引継
- ○キク→さし芽、赤土・川砂へ
- ○春まきの草花の種まき、まだ間にあうので上旬までに急いで。
- 草とり、追肥などの管理忘れずに。

（六合小　藤崎　正雄）